2　ジョブ制御文

ジョブの流れでは，ジョブの投入から終了までを概観したが，このようなジョブスケジューリングを行うのがジョブ管理と呼ばれるプログラム群である。

ＯＳⅣ／Ｆ４では，利用者から依頼された複数のジョブを同時併行処理する多重プログラミングを実現しているが，このためには，上記ジョブ管理機能に加えて，cpuや主記憶装置の割り当てなどを管理するタスク管理機能，およびデータの入出力や補助記憶装置上のデータを統一的に管理するデータ管理機能をもったプログラム群がある。これらジョブ管理・タスク管理・データ管理と呼ばれるプログラム群を制御プログラムと呼んでいる。

制御プログラムが，その機能を遂行するためには，さまざまな情報が必要である。これらの情報は，利用者がその必要性に応じて制御プログラムに与えなければならない。利用者が作成した制御プログラムに与える情報がジョブ制御文である。

ＯＳⅣ／Ｆ４が必要とする主要なジョブ制御文はつぎの三種に大別できる。

(1)　ＪＯＢ文

ジョブの始めを示すと同時に，ジョブの名前，ジョブの属性などの情報を記述する。

例

```
// TL2001  JOB  PASS=TL,  CLASS=A
   └ジョブ名     └パスワード  └ジョブクラス
└→ ジョブ制御文であることを示す(以下同じ)
```

(2)　ＥＸＥＣ文

ジョブステップの始めを示すと同時に，実行に必要な処理プログラム名，必要な主記憶のスペース，cpuの使用時間などの情報を記述する。

例

```
// STEP 1  EXEC  PGM=FORT 77, ……
   └ジョブステップ名 └処理プログラム名
```

(3)　ＤＤ文（data set definition）

ジョブステップで使用するすべてのデータセットについての情報を記述する。

ＤＤ文で記述する情報は，JOB文やEXEC文に比し数多くあるが，主要なものはつぎのとおりである。

①　装置名

データセットが，ＭＴ，ディスク，カードなどの各種装置のうち，どの装置上に置かれているのかを装置名で指定する。

②　ボリューム通番

ＭＴ，磁気ディスクなどは，各ボリュームに通し番号をつけておき，必要とするデータセットが存在するボリューム通番を指定する。

③　データセット名

磁気ディスクのような大容量の補助記憶装置では，非常に多数のデータセットが記録されている。利用者は，データセット名を指定さえすれば，データ管理が，ＶＴＯＣ（データセット名とそれが記録されているアドレス情報との対応表）を参照することによって，必要とするデータセットにアクセスできる。

④　ｄｄ名

ｄｄ名は，多数のＤＤ文を識別するためにそれぞれのＤＤ文につけた名前である。

このｄｄ名は，処理プログラム上の装置指定と同じ名前でなければならない。これによって，処理プログラムで指定した入出力装置は，実行時に使用する入出力装置と対応づけられるのである。

⑤　その他

処理プログラムが出力する実行結果を記録するために必要とするスペース量，新規作成追加作成・作成済など，使用前のデータセットの状態，データセットのレコードの記録状況（レコード長，ブロック長などデータ制御ブロックに必要な情報）などを指定する。

例

```
// INF DD   DSN=URIAGE ,（データセット名）
   └dd名    UNIT= SYSDA （装置名）
            VOL=SER=USER01（ボリューム通番）
            DISP=(OLD , KEEP )（状態）
            など
```

おわりに

ジョブ制御文は，バッチ処理に与える制御情報である。ＴＳＳ処理，カタログ等々についてふれることができなかった。今後，センターのシステムを活用され，ＯＳにもふれていただきたい。

参考資料　「オペレーティングシステム」
江村潤朗著　オーム社